

都市再生整備計画(第5回変更)

篠ノ井駅東口周辺地区

長野県 長野市

令和3年1月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長野県	市町村名	ながの市 長野市	地区名	しののえきむらぐもほうへんく 篠ノ井駅東口周辺地区	面積	85.2	ha
-------	-----	------	-------------	-----	------------------------------	----	------	----

計画期間	平成	28	年度	～	令和	2	年度	交付期間	平成	28	年度	～	令和	2	年度
------	----	----	----	---	----	---	----	------	----	----	----	---	----	---	----

目標

大目標:人・地域が輝き人々が集う「あい」のまち

目標1:人々の生活を支える様々な都市機能がコンパクトに集積した安心・安全で快適な中心市街地を創造し、賑わいの再生と人々が集い行き交う交流のまちを目指す。

目標2:多彩な市民活動を育むことで、人・地域が輝き活力が溢れるまちを目指す。

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市は、長野県の北部に位置し、古くから善光寺の門前町、松代城下町として栄えてきており、併せて県庁所在地として商業施設や都市福祉施設、行政施設など多様な高次な都市機能の立地が進み、地域の中核基幹都市として発展してきた。また、北陸新幹線や高速道路等の高速交通網が整備されているとともに国道18号や国道19号など主要幹線道路が市内を縦横断しており交通・交流の要所となっている。

しかしながら、高度経済成長に伴う自動車社会の進展によって、郊外の平坦部を中心に商業施設や住宅地などの立地が進み都市機能が拡散し、市街地が郊外部に拡大してきており、今後、本格的な人口減少・少子高齢時代を迎えるにあたって、拡大した市街地では福祉、医療、商業等の生活に必要なサービスの提供を維持していくことが困難になりかねない状況となってくる。

こうしたなか、人口減少や少子高齢化の進展など、社会の構造的な変化に対応するため、開発型から保全体への土地利用の転換が求められており、長野市第五次総合計画及び長野市都市計画マスタープランにおいて、地域の特性を活かした都市拠点【広域拠点(長野地区中心市街地)、地域拠点(篠ノ井、松代、北長野)、生活拠点(市街地における地域の「生活の質」を高め生活と密着したサービスを提供する都市機能の集約・維持する地域の中心地)、生活中心地(【歴史的に形成されてきた平坦部や山間地域の中心地区】)づくりと、それらを公共交通ネットワーク等で結び、都市拠点が相互に機能的に連携したコンパクトで暮らしやすいまちづくりを推進している。このため、それぞれの都市拠点において、それぞれが担う役割に応じた都市機能の集積を図ることとしている。

今後は、これら全体方針を踏まえた「立地適正化計画」によって、居住機能、都市機能の適正な立地と公共交通等の充実を図り、将来にわたって持続可能な多極ネットワーク型コンパクトシティの形成を目指す。

そのために、地域拠点である篠ノ井地区の篠ノ井駅東口周辺を「中心拠点区域」に位置づけ、老朽化した地域交流センター、市民文化ホール、市支所、老人福祉センターなどの地域住民の日常を支える拠点施設の集約・多機能化によって公共公益サービス機能の維持・向上を図るとともに、地域資源を活かしたまちづくりを推進することで、篠ノ井駅東口周辺地区の魅力向上と活力を創出し、都市機能の拡散防止と民間活力による居住機能、都市機能の誘導を促す。

都市全体の公的不動産の活用策としては、長野市公共施設マネジメント指針(平成27年7月策定)に基づき、単独目的の用に供する新規施設整備は抑制し、施設の長寿命化や適正な維持管理を行い、既存施設の有効活用を図るとともに、現在の公共施設総量(総延床面積)を、今後20年間で20%縮減することを目指す。今後は、この指針に基づき「公共施設等総合管理計画」によって、既存施設のライフサイクルコストの最適化を図りつつ、施設の統廃合や更新を進め適切な保有や効果的・効率的な運営に取り組み集約型都市構造への転換を図ることとしている。

まちづくりの経緯及び現況

篠ノ井地区は、国鉄信越本線(現しなの鉄道)と篠ノ井線(現JR)との分岐点、国道18号・19号等の交通要所として、千曲川沿線の中核帯として発展し、現在は長野市南部地域の副都心的な役割を担い、基幹病院や教育文化施設、商業・業務施設など多様な都市施設が集積しているほか、周囲には茶臼山動物園や恐竜公園、長野オリンピック冬季競技大会の開閉会式場となった南長野運動公園などが整備されており、市民並びに近隣市町村の住民などの生活・文化・交流の拠点となっている。

しかしながら、篠ノ井駅東口周辺の中心市街地は都市基盤が未熟なまま市街地が形成されてきたため、狭い道路が多く、また、面的整備による土地利用の高度化が進まず、自動車社会の進展とともに商業施設や住宅などの郊外立地が進み都市としての魅力、求心力が失われてきていた。

こうしたなか、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催を契機に新幹線の整備が決定し、篠ノ井駅に東西自由通路やペDESTリアンデッキ、駅前広場が整備されるとともに、駅前通りの電線類地中化事業の実施によって、住民のまちづくりに対する意識が高まり、平成12年に篠ノ井駅東口周辺を中心市街地活性化法に基づく特定市街地(旧基本計画)に指定し、官民協力のもと中心市街地の活性化に取り組んできた。また、地区内にプロサッカーチームのホームスタジアムが整備されたことから、住民主導によるスポーツを活かしたまちづくりが進められているとともに、スタジアムや篠ノ井駅に通じる都市計画道路の整備が進められている。

一方、篠ノ井駅周辺の居住誘導区域では、公共交通の利便性を活かした宅地開発が進み、公営住宅や土地区画整理事業などによって良好な居住環境が形成されたことから区域内人口は増加傾向にあるものの高齢化率も急速に増加している。また、宅地開発等が進んだ結果、新しい住民との交流・融合が課題となっているほか、少子高齢・核家族化などの進展によって住民同士の連帯意識が希薄化しつつあり地域コミュニティの低下が懸念されてきている。

このような状況のなか、市民活動等を支える既存公共施設は老朽化が進み耐震性が不足しており、安全面や防災面で機能が低下してきているとともに郊外に立地している公共施設のあり方が大きな課題となっている。

こうしたことから、既存公共施設の集約・多機能化と都市施設の整備によって歩いて暮らせるコンパクトで暮らしやすいまちづくりを推進し、まちの魅力・求心力を向上させ都市機能の拡散防止を図るとともに市民活動を育む環境を整備することで、まちの活性化と地域コミュニティの再生を図る。

課題

・中心市街地の都市機能の衰退と人口減少・少子高齢化の急速な進展

・地域住民の生活・文化・交流を支える都市機能の充実・強化が求められている。

・人口減少・少子高齢化や環境に配慮したコンパクトで暮らしやすいまちづくりが求められている。

・地域コミュニティを活性化させる拠点施設などの整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)

第四次長野市総合計画:本市の都市像を「～善光寺平に結ばれる～ 人と地域がきらめくまち ながの」に定め、「多核心連携を目指したコンパクトなまちづくりの推進」を重点施策に位置づけている。

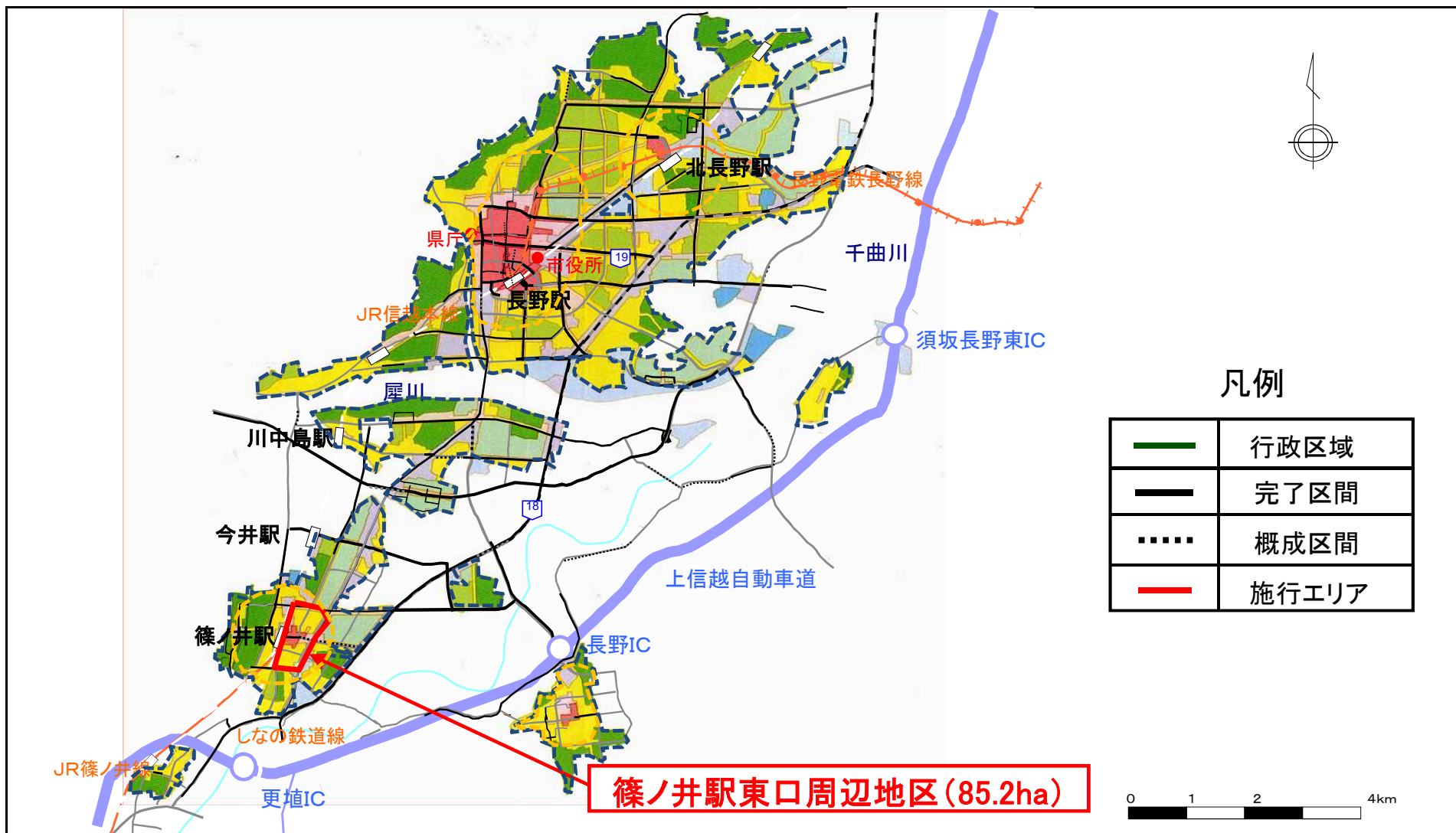
第五次長野市総合計画:本市の都市像を「幸せ 実感 都市『ながの』～“オールながの”で未来を創造しよう～」に定め、「快適に暮らし活動できるコンパクトなまちを目指すこととしている。

長野市都市計画マスタープラン:篠ノ井地区を都市拠点(地域拠点)として位置づけ、広域的な交流の促進や生活文化機能の向上など長野市の南の玄関口として、地域拠点にふさわしい都市機能の充実を図ることとしている。

長野市立地適正化計画:コンパクトな都市(集約型都市構造)とするため、多彩な都市機能が集積し都市生活・活動の核となる都市拠点(篠ノ井都市機能誘導区域)の形成を図ることとしている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○人々の生活を支える様々な都市機能がコンパクトに集積した安心・安全で快適な中心市街地を創造し、賑わいの再生と人々が集い行き交う交流のまちを目指す。</p>	<p>【基幹事業】 中心拠点誘導施設：老人福祉センター再整備 高次都市施設：地域交流センター再整備 道路：篠ノ井支所線 道路：篠ノ井中152号線 【関連事業】 街路事業：(3・4・46)川中島幹線 篠ノ井支所合築再整備事業</p>
<p>○多彩な市民活動を育むことで、人・地域が輝き活力が溢れるまちを目指す。</p>	<p>【基幹事業】 中心拠点誘導施設：老人福祉センター再整備 高次都市施設：地域交流センター再整備 【関連事業】 篠ノ井支所合築再整備事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】 ・現在、「篠ノ井駅前商店会」「篠ノ井中央商店街協同組合」「パルセイロ篠ノ井応援の会」「篠ノ井大獅子保存会」「ながの軽トラ市実行委員会」等の団体が連携し、「夏祭り」「朝市」「花壇定植管理」等の地域にあった事業を行ない、まちの活性化に取り組んでいる。 ・篠ノ井地区の公共施設の再整備にあたっては、篠ノ井支所等公共施設整備計画検討会(篠ノ井地区住民自治協議会、長野商工会議所篠ノ井支部および篠ノ井商店会連合会)において整備計画等を検討してきた。</p>	

篠ノ井駅東口周辺地区(長野県長野市)	面積	85.2 ha	区域	長野市篠ノ井布施高田の一部 他
--------------------	----	---------	----	-----------------



篠ノ井駅東口周辺地区(長野県長野市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 人・地域が輝き人々が集う「あい」のまち	代表的な指標	歩行者・自転車通行量 (人/日)	3,402 (H26年度)	→	3,400 (R3年度)
	目標1: 人々の生活を支える様々な都市機能がコンパクトに集積した安心・安全で快適な中心市街地を創造し、賑わいの再生と人々が集い行き交う交流のまちを目指す。		拠点施設の利用者数 (人/年)	63,591 (H26年度)	→	63,600 (R3年度)
	目標2: 多彩な市民活動を育むことで、人・地域が輝き活力が溢れるまちを目指す。		()	(年度)	→	(年度)

